

幼 兒 教 育

第 二 十 二 卷 第 九 號

大 正 十 一 年 九 月 十 五 日 發 行

目 次

兒童と製作……………	中 田 俊 造
小兒の食物に關する實話……………	小 野 辰 次 郎
小兒の百日咳に就いて……………	豐 福 環
童謠の要訣……………	葛 原 齒
子供は親の親である……………	山 田 忠 正
異常兒の身體的特徴に就いて……………	寺 澤 嚴 男

日 本 幼 稚 園 協 會

會告

○會費御拂ひ込みの節は御名前初め御入會の時の御名前と同じにして頂きたう存じます。例へば初め幼稚園名にて御入會になり、後、個人の御名前にて會費御拂込み等のことなき様に願上ます。整理と甚だ煩雜致しますから。

○會費未納は會計整理の上に甚だ困難致しますから確實に御納付下さいまし。向後萬一御不納久しきに互ります場合は乍遺憾雜誌發送を停止致します。

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願ひます。

○萬一本誌不著等のことがございましたら直に御一報煩したう存じます。

本誌定價

一冊(郵税共)金貳拾五錢 六冊 前金壹圓五拾錢
十二冊 前金 參 圓 (郵券代用壹割増)

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

大正十一年九月十二日印刷

大正十一年九月十五日發行

東京市外中野町千光前三〇三〇番地
編輯兼發行者 倉 橋 惣 三

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷者 柴 山 則 常

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷所 會社 杏 林 舍

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

發行所 日本幼稚園協會

幼 兒 教 育

第二十二卷
第九號

大正十一年九月十五日發行

兒童の製作

女子高師講師 中 田 俊 造

子供は如何に物を造るか、その製作に對する動機及目的が如何なる過程を取つて進歩發展するであらうか、といふことは家庭竝に學校教育上頗る興味ある問題で之等の研究は當に今日幼稚園の手法や遊戲の指導乃至小學校に於ける手工科等の教授方案の上にも有力なる根柢を與へる許りでなく、最近に至つて高潮されて來た作業教育、趣味教育等の問題に就ても重要な資料を與へるものである。

然らば斯の如き問題に就てこれ迄どれ程の研究が爲されてゐたであらうか。從來平面的な製作即ち圖畫に就てはいろいろ調査されたものがあつたのである。圖畫に於ては描くこと、即ち美なるものを造り出す働きの進歩に就て、サレト氏の様な心理方面か

ら有機的進歩に因める説明を試みた人や、ラムブレ、ヒト様の様な開化史的見地から反復説を採つた人や、レフインスタイン氏や、ケルシエンシユタイナ、ト氏の様に數萬人の兒童に就て頗る綿密に統計的論斷を試みたものや、スタンレー、ホルル氏などの様に年齢の發達に併せて、其の變化の特徴を調べたものや、モイマン氏の様な心理的方面から綿密な分析的研究を試みたものなど、各種の方面からの研究があつて、直接間接に本問題の調査上有力な資料となるのである。

併しながら斯の平面的な美的製作、即ち圖畫的發表よりも更に具體的な木や、紙や、金屬などの様な材料を使つて立體的に發表した純粹な手工的發表に

就ては比較的有力な調査が甚だ少いやうに思はれる。即ち斯の方面では、ケント氏や、ルッケンス氏や、クロスウイル氏などの二三の報告以外には餘り耳にしない。殊にかゝる問題に關し、我國に於ては資料が甚だ乏しいので、圖畫的方面では此種の研究に多少縁が少いやうではあるが、富田文學士や關氏などの試みられた研究等の一二があるばかりで幼稚園の手工や、小學校の手工方面に就て、如上の紙、木材、金屬等での構成的方面に關する調査は近來保育上竝に小學校の手工科等で盛に自由製作などの鼓吹せられるに關らずまだ聞かない様である。

されば、此種の問題に就て過去の研究を總合し眞に根本的に我國兒童に適切なる研究を行ふことは頗る困難な事であるが今は唯調査の中途に於て未熟ながら今日迄得た材料や、平素の經驗に基き、ケント氏や、クロスウイル氏などの研究を参照して兒童製作の進歩に對する大體について述べることにする。

一、製作の動機と目的

凡て兒童の製作は、遊戯的本能に基ける構成的遊戯に始まるのである。思ふに遊戯は兒童に取つて最初の仕事であつて、彼等は吾人が職業を有せねばな

らぬ様に遊戯は必ず爲さねばならぬ仕事である。彼等に取つて遊戯の間ほど熱心で、且つ勤勉な時はないので、兒童生活の全部は殆ど遊戯に統合せられると云つて敢て過言ではない。而して、遊戯の状態も、その實際を見るに年齢の進むに従つて、いろ／＼な變化があるので、兒童の幼少な間は、玩具などを與へても單に之を打ちつけたり、投げたりして随分破壊的な動作もするが、漸次生長すると共に、自分で人形を造つたり、砂山を築いたり、紙片などで色々の物を造つて遊ぶやうになり、以前に比べて、餘程構成的な仕事に興味を持つやうになつて來るのである。かくて、從來の氣儘と自由意志によつて斷片的にやつて來た構成的遊戯は、次第にその結果に心をよふるやうになつて來ると同時に、從來の無責任な遊戯的な仕事は漸次その結果に就て、兒童相應に一種の責任を感じて來るやうになり、終にはその構成的な仕事の中に、餘程未來を慮る考へや、結果を豫想して現在に注意するが如き、計畫的な用意が現はれ、その意味が増して來るのである。かくて、兒童の單なる遊戯が漸次構成的遊戯に進みそこに作業の根柢を生む様になつて來るので、兒童生活に於ける作

業は、實に斯る時期から始められるものである。

かくて兒童の發育狀態に併せて、其の製作の動機や目的などを調べて見ると、朦げながらそこに何等かの時期を分ち得るのである。今自分の淺薄なる經驗や、從來調査研究せられてゐるものなどを併せ考へて、その主なる時期を擧げることとする。

一、模擬的發表時代

前に述べたやうに、兒童が漸次發育進歩するに伴ひ、或は家を造るとか、人形を造るとか、或は紙を切るとか、其他いろ／＼な遊戯的な仕事、即ち構成的遊戯を試みるのであるが、それ等の仕事は他人の用に供する爲や、美的表出を試みる意味ではなく、その目的たる單に興味あるものを具體的に表出するだけのことである。それは單に製作活動の樂しみ位に過ぎないのである。即ち彼等の製作の目的は、所謂美的表出や、實用的慾求に基くのではなくて、多くは無自覺的の發表に外ならないのである。

而して此の時代の特徴として、總ての事物の觀察が主觀的であること、その活動が總べて遊戯によつて統合せられて居ることである。故にともすると、始めは熱心に仕事に著手し相當に眞面目で構成的で

あるに關らず、彼等の體力や、注意の持續力が薄弱なる爲か、終には遊戯化し去ることも少くないのである。物を造る際にも、自己に興味ある部分は丁寧には表はさん事に努めるのであるが、興味のない部分や、自己に不必要な所は大膽な省略をして殆ど之を顧みないといふ風である。随つてその表出たるや、多くは甚だ不釣合で僅かに事物の特徴を表すに過ぎないのである。之を大人から見ただらば、全く取るに足らない拙い手際であるに關らず、彼等にこりては實に此上なく巧妙なるものゝ如く、自から千古の傑作の如く信じて少しも疑はないのである。而してかゝる時期は相當に長い間續くやうである。

更に又此の時代の製作品をその性質の上から見る時は、概して模擬的色彩の鮮明なことである。それは、彼等の製作の動機が、主として彼等が平素絶へず接觸せる父母や、兄弟や、朋友等の製作に模倣することが大部分を占めてゐることである。即ち最初の興味は物若しくは製作品に存しないのでその中心は人にあるのであるが、暗示や模倣の結果、次第に獨立的に自動的に自分で行ふやうになり、彼等の事物に對する興味は漸次主觀的に遷り、其の觀察は疎

難より精細となり、かくて從來の單なる模擬的傾向はその影を潜めて、漸次寫實的傾向を示して來る。自分は此の時代を寫實的發表時代を名づけるのである。

一、寫實的(表現的)發表時代

前期に續いて此の時期では、總てに於て一段の進歩を現はして來るので、製作の態度も單に符調を模擬するが如きことに満足せず、成るべく實體に近よらんとする努力が著しく現はれて來る。即ち事物や模範に似せてそれに一致せんことに勉める所謂寫實的の時代である。従つて彼等の興味を中心は、過去の單なる發表や、無意味な製作活動に飽き足らないで既に成果の巧拙に留意し、娛樂的模擬的仕事が技術的要素を加へて著しく其結果に注意するやうになつて來る。かくて此期より大人の製作活動から仕事の方法様式などを模倣することに努力する様になつて來る。此の傾向は兒童によつて一定しないが、満八歳乃至十歳頃には殊に著しく表はれて來るやうである。

此の時期の特徴は、兒童の考へが主觀的から客觀的に遷らんとすることで、遊戯なども漸次眞面目な

活動に移らんとする過渡期である。概して智識の發達が旺盛な時で、工作に於ても前に述べた外に、自己の體力の及ばない事を覺り、手指のみで満足せず、道具即ち體力の補助機關を要求するに至るのである。従つて簡易なる道具に對して、吾人の豫期以上の興味を感じ、製作法の指導に於ても餘程秩序的に取扱ひ得る時期である。

製作の動機に就て見るに、前期に比べて新に或實用的目的のもとに製作を試みる事が多く、十二三歳頃では殆んど此の動機が全製作を支配すると言ふてもよい位である。而して、その實用の意味なるや、大人の見ると所謂經濟的のものでなく、多くは自己の遊戯的要求を充さんとする所から來たものである。

爾來實用の意味たる、兒童の發達に應じて各々其内容を異にしてゐる。即ち前に述べた様に、全く自己の遊戯活動の用具などを作らんとする意味の實用と、自己の身廻りの日用品即ち、筆入れ、紙挟み、寫真立の類の如き、直接自己に必要な品を意味するものと、更に他人即ち父母兄弟友人などへ送りものとして作るものなどの場合があるのである。此の三つの内此の時期では第一第二の場合が多くの動機を支配

してゐるのである。

一、趣味的發表時代

此の期の終り頃から、音年期へと年齢の進むに伴つて製作に對する態度に著しき變化を示して來る。前時代には實物通りに作る事が多かつたが、此の時期ではそれに満足せず、それ／＼各自の目的及趣味に應じて製作に多少斟酌の跡を示す様になつて來る。即ち自然物の模倣や示範のみに満足せず、より以上の或る標準に照して製作を試みようとする傾向を示して來る。即ち此の時期では技術に留意し之に苦心を拂ふことは勿論、事物本來の性質乃至材料の選擇等各方面に心を配つてその製作は全然工藝的となり、意匠考案の上に著しく美術的色彩を帯びて來るのである。

この期の特徴は兒童の考へが第一期の主觀的な時代や、第二期の主觀より客觀に移らんとするのに比べて、主觀と客觀とは全く分離し未來の爲に現在の苦痛を忍ぶのみならず、其の苦痛を忍ぶことが却つて彼等の興味を喚起するに至るのである。殊に體力の發達著しく手の起興力や握力や腕力などが進歩するばかりでなく、これ等の運動に正確の度を加へ、

漸次筋肉運動を調節して調和的發達を來す時期となるのである。

尙製作の動機を見るに、前の時期に比べて自己及他人の爲に造らんとする實用的慾求の念が一段と強められてゐる。殊に前期に比べて仕事の内容に對する得意、不得意の別が顯著となり、總てに個人的色彩が加り、多くは各自の得意の仕事即ち狭き範圍に深く通じる傾向を示し、單に一物を造るにも自己の満足、不満足を念頭に置いて絶へず氣にする風がある。此の時期は技能の點より見て、各自生涯の幸不幸の岐れる重要な時期で、實業を好み、且つ之を尙び進んで得意とする特殊の業に入らんとする念慮を起す時である。又科學と美術とが如何に人生に利用せられつゝあるか、如何に價值あるかを自得せしむるに最も好適せる時期で、従つて技能の發達も此の時期の終りを以て最高に達するのである。

以上は極めて大體に就ての區分であつて、各部分の詳細に就ては未だ盡さない點が頗る多いこと、思ふ。要するに兒童の製作は、構成的遊戲から始められ、續いて興味あるものを單に長者の爲す所に倣つて具體的に表はす模倣的發表時代に進み、更に實物

や示範を模倣せんことに専心する寫實的發表時代や、自然そのものゝみに満足せずして、各自の趣味的潤色を發表の上に試みる趣味的發表時代に至るのである。

是等の間における製作の態度や、興味を中心の變化も、始めは單に造るものよりも寧ろ其の人に興味を有しその人の爲す所を見て行ふ位の時代であるが、漸次長者の示す模範や實物に似よらせん事を眞面目に勉める時で、實物通りに出來上るといふ點から自己の實力を自覺して其の進歩に興味を感じ、盛に自己の日用品や、遊戯用品の製作に専心するのである。更に第三期に入つては、單に示範を模倣することのみに満足せず、其處に個人的色彩や趣味的色彩が濃厚となつて來るので、製品の興味も自己の日用品竝に他人へ供する實用品、其他、贈與品等の製作に熱注するやうになつて、未來の爲に現在の苦痛を忍ぶことに却つて興味を感じるやうに進んで來るのである。

尙之を一般技能上から觀察すると初めは手指の時代ともいふべきで、紙を裂くにも木を切るにも土を掘るにもすべて直接に手を以てするので、手は唯一の工具である。進んで漸次發達するに伴ひ仕事を爲

すにも自から眞摯なる趣が現はれ、その活動も單に手指のみにて満足せず、之を補ふ所の道具即ち體力の補助機關を要することゝなる。されば小刀、鋏等の工具が如何に彼等の興味をそゝるかは大人の想像の及ばぬ所である。又槓杆、彈條等の效力を識り、弓矢、竹馬、投石等に就ての興味も頗る深いものである。

要するにこの時期は人類の實業的活動の象徴たる工具の適當なる使用竝に工作の順序を窺ひ知るべき好適の時であるから、技能的教授上最も意味深き時であるといはねばならぬ。

更に進んで來ると以前の如き遊戯的の氣持は、その影をひそめ、仕事の形式とか方法とかについての考が餘程組織的になつて來るので仕事の技巧に力を向ける様になる、この傾向は幼稚園小學校等で課する手技竝に手工等に就て考慮を要する點が尠くないことゝ思ふ。

以上は兒童の傾向に依つて極大體の經過を記述したにすぎないのである、隨つて各種の階段も劃然とした區別が常にあるわけではないことは勿論である、何れ之れに關する生理的方面的考察や、實際教授上より得たる統計的結果に就ては追つて發表することゝし今回は之れで擱筆する。

小兒の食物に關する實話

水産講習所技師 小野辰次郎

私は未だ小兒の食物に對し何等の研究を致したことはありません。隨つて此の問題に對して云々することは甚だ僭越と信じます、併し、折角の御尋ねですから、聊かなりとも私の實行しつゝある事柄及び平素之に對して考へて居る事柄の二三を述べ、御參考に供したいと思ひます。

私は平時小兒の食物に就いて特別の注意を拂つたことはありません。但し大體に於て、配合と分量とに注意し、配合に於ては成るべく榮養分の行き互る様、分量に於ては幼年の際蛋白質の量を餘りに多く過さしめぬ様、注意致して居ります。且つ、年齢及び個人に基く嗜好を研究し、程よき範圍に於て彼等の嗜好を満足せしめ、善導することにつとめて居ります。

嗜好と榮養とを調和せしむることに就いては、出來得る丈の注意を拂ひ、小兒の嗜好する食物、(尤もこれは全體から云ふのであります)の中に榮養分

を多く含有せしむる様工夫致して居ります。尤も個人の嗜好及尊重致しますものゝ食物が徒らに贅澤に流れ、又は單に味覺の満足を得ることだけでない様に、注意して居ります。尙ほ、嗜好を善導して、食物の調理に色々變化を試み、如何なる材料を以て致しましても、小兒が之を嗜食する様、習慣つけたいと思つて居ります。

小兒の病氣の時には、食物に對して往々閉口させられました。この事は皆様にも經驗した方が少くないだらうと信じます、醫師が與へてよろしいと云ふ食物には、病人に多くの場合嗜好慾がなく、與へてならぬと云ふ食物に却つて大なる嗜好慾が催されるのであります。斯かる場合の看護の任に當るものは、實に心苦しい立場に置かれるのであります。之は何とか工夫して、敢へて小兒と云はず、大人に對しても、病人用の食物を研究する必要があると信じます。私は、將來事情が許しますならば、この方面

にも多少研究の歩を進めて見たいものだ云ふ希望を持つて居ります。夫れは夫れと致して、斯の如き場合にも前申しました嗜好の善導を應用する事に依り、幾分此の苦痛を免れ得る様であります。それに關し貧弱ではありませんが、最近私が實驗した經驗をお話し致しませう。

私は先達て三人の子供に病氣をされましたが、皆の子供に食欲の減退した時前申した事柄を實驗しやうと思ひまして、一つの食物を試製致しました。それは、バナナを摺つて裏漉に掛け、水の溶解した水にて薄め、適量に砂糖を加へて、甘味を調和し、之を小皿に盛り、氷塊と食鹽とを入れた大皿の中にて冷却致すのであります。當時子供等は皆發熱して居りました。非常に渴を訴へつゝありましたが、生果の味と寒冷の感とを同時に知覺しましたので、未だ食欲がなかつた時に拘はらず、非常に喜んで之を攝取しました。此の時から食氣が喚起されました。彼等は今日でも其時分の味は忘れないと申して居ります。之は一例に過ぎませぬが、此理を應用すれば、如何様にも變化は出来ることと思ひます。

小兒の食事に際しては特別なる注意は致しませ

ん。併しながら、主義と致して、冷たい飯(炊き置き)の飯に暖い汁を掛けて食べさせぬ様にして居ります。

尤も之は中々實行が出来ませんが、併し、夏季に際しては、炊き置いて稍々永く時間を経過した飯に此の如き食ひ方をさせぬ様に注意して居ります。之は、一つには細菌の蕃殖が容易であらうと云ふ考へと、又一つには私の經驗からどうもそうしない方がよいと考へたからです。

小兒の飲料に就いては聊か注意を拂つて居ります。私は東京市の如き清淨なる水道の水ならば多少飲ませて差支ないものと信じては居りますが、併し、冷水を飲用する僻は小兒側に在つては、其が水道の水である普通の水であることを問ふことをしませぬから、一切生水は飲用させぬ主義を採つて居るのであります。夏季に於ては、麥湯を多量沸かして置き、之を冷却し飲用せしめます。但し場合に依り、水道の水を飲用せしむることもありますが、之はほんに例外であつて、子供には恰も清凉飲料を飲んだ程の感を起させる位にしてあります。サイダーの如きは、吟味して之を與へ、下底の小部分は成るべく飲

用せしめぬ方針にして居ります。

調理用の水に關しては誠に苦い經驗を持つて居ります。嘗て私は餘り清淨ならざる水を飲食用に供せねばならぬ境遇に置かれましたが、この場合私は濾過、清澄等色々手段を講じましたけれども、何分にも手狭なので遂に何れも其の目的を完全に達することが出来ませんでした。(尤も濾過法に少し注意すれば淨水の效果は奏し得られる譯であります)。そこで私は變則的に其の水の不潔なる間、飯を焚くにも汁を焚くにも、水の沸騰を最初に於て稍々永く行ひまして、然る後普通に調理する様家人に命じました。又苦痛ではありましたが、水の清淨となるまで糠漬等の當坐漬を一切攝取せぬ様注意致しました。但し、生物を攝取せぬことは、何となく苦痛であり、且つCビタミンが缺乏する様にも感ぜられましたから、時折は生果であるとか、トマトであるとかを攝取して、其の苦痛の幾分を軽減致しました。

調理法に就いては餘り六ヶ敷いことを申しません。是れ一つは我々の境遇上止むを得ないからであります。唯併し、或る材料に榮養分が缺けて居つて、

夫れを久しく用ひねばならぬ場合には、他の材料と配合して其の缺陷を補はせる様注意致しました。又、夏ならば夏の氣分、冬ならば冬の氣分を味はせる調理法を採用する様に工夫して居ります。

乳兒を養育した經驗に就き御話し致しませう。母乳は何時も豊富でありましたが、尙ほ萬一の場合を慮り、平時より牛乳を與へて置く習慣を付けて置きました。而して牛乳の濃度及び味はつとめて母乳のそれと等しからしめ、以て乳兒をして牛乳に嗜好を喚起させる事を易からしめましたのであります。此の爲め、母が病氣であつた場合にも乳兒の食糧に就いて不自由を感じる様のことはありませんでした。而して乳兒に牛乳を與ふる場合には(平時)、他の人の母乳をも供給し、決して牛乳にのみ偏らせることは致しませんでした。今考へて見ますれば、それは確にビタミンの補給上善いことであつたかと思つて居ります。

牛乳を煮沸する際は、ざつと泡立つて來た時下ろす様にして居ります。永く煮沸を續けますと、ビタミンの如きは、破壊の虞があり、且つ蛋白質が凝固しますから、斯くしない様注意して居ります。

以上は小兒の食物に就き私が多少なりとも注意して居る事柄の一端であります。終りにのぞみまして一言申上げて置きたいと思ひます。それは、調理者（主に母なる人）の小兒に對する心入れに就てゝあります。日常食膳に上る所のものは、如何に粗食であるに致せ、調理者としましては、出來得るだけの誠實味と趣味と榮養とを盛ることが甚だ必要であらうと思ひます。食物は單に身體の榮養となる許りでなく、又一面には精神上的の榮養とならねばならぬのであります。若しも榮養を盛る其上に誠實味と趣味とが充分に盛つてあるならば、攝取者はこれが爲め精神上善き糧を得るであらうと信じる次第であります。

ロンドンの巡查ミ子供

私たちは子供のいきから、「お巡りさん」といへば、恐いものにお教へられ、又た自分の子供たちにも、「そんな事をするミお巡りさんに叱られますよ」など、つひ言ふことがございます。

然し、これは誠に誤つた考へ方であり、又實際に於て

も、斯くあるべきものでは決してなからうと存じます。

この事に就きまして、有名なお話は、英京ロンドンに於ける巡查のこゝでございませう。御承知のやうに、ロンドンでは巡查は一般の人より體格の遙かに優れた大男を採用して、之に民衆保護のため充分なる訓練を施すのです。ですから、「巡查」ミいふ職業は社會から實に尊敬されてゐまして、巡查自身も高いカルチュアがありますから、やたらに、威張つたり、不親切な行ひをしたりする事はございませぬ。

彼等は、身の不自由な老人や、か弱い女子供のよい相手でありませぬ。荷を負うて悩む年寄りの勞働者があれば、それを扶けてやり、泣いてゐる子供があれば、それを抱き上げてあやしも致します。ですから、ロンドンの子供らは、この「お巡りさん」を恐がるどころか、却て、「大きな小父さん、親切な小父さん」と言つて親しんで居ります。

彼等は子供の面白い遊び相手であり、且つ親切な保護者であります。親たちが子供の惡戯を止める嚇しに、「お巡りさん」を利用する我が國ミ、全く雲泥の差ではありませんか。

一日も早く、ロンドンの巡查ミ子供のこの美しい關係を、我が國に於て實現し度いものではないかと。

小兒の百日咳に就いて

醫學博士 豊 福 環

今年は大層百日咳が小兒に流行いたしました、眞夏頃でさへ、私の方に見える患者の子供の中に澤山ありましたから、秋風立ちそめて、空氣が乾燥し始めますと、尙更流行すること、思ひます。然し、幸にも、今年の百日咳は餘り悪性でないのでありますから、手當さへよろしければ、別に心配するには及ばないのでございます。

百日咳はどうして起るのかと申しますと、ブルデ及びジャングの兩氏に依つて發見された菌の作用であります。インフルエンザ等と同じやうなわけなのであります。今日でも、昔の通りに、菌説をこらぬ人もあつて、神經性のものであるといふ事を唱へる人もありますが、大體は微菌の作用に基くものでありまして、人から人へ傳染してゆくのも、微菌の作用である事は間違のないものであります。

百日咳は、どうして傳染してゆくか、といひますと、咳さへふつかけられなければ、側に居りまして

も、決して傳染するものではありません。麻疹ハシカなら、同室に居りましただけで傳染してしまふのであります。百日咳は二メートルさへ離れてゐましたら、傳染することはありません。

百日咳に罹る年齢は小兒期が一番多いので、小兒の年齢が小さければ小さいほどかゝり易いのであります。今年は大層でも百日咳に侵かされて居ります。これは子供が百日咳になりましたのを看護してゐる母親や乳母が傳染するからです。

こんな例がありました。母親が妊娠して臨月に近くなつて居ります時に、子供が百日咳にかゝつて、母親が子供から傳染して、百日咳のために遂に母親が早産してしまつたといふのがあります。又これも産婦の例でございますが、この方は病院でお産をしてゐる中に、家に残して來た子供が百日咳になつたので、新しく生れた赤さんに豫防注射をして少し退院の日をのばしてから、歸宅しましたので、幸にも赤

さんが百日咳になることを免れたといふのであります。

小兒が百日咳に罹りますと、豫後がどうもはかばかしくゆきません。小兒は出来るだけ豫防して、この可愛いさうな病氣にかゝらせないやうにするのが一番よろしいのでござります。百日咳はどんな風にして起つて来るかと云ひますと、初めは普通の風邪と同じやうで、咽喉がはれたり、鼻が出たり、咳も少しは出て、熱はないのであります。かうしてゐる中に、毎日に咳が強くなつて行きます。

百日咳は大體三期に分つことが出来ます。第一期は加答兒期、第二期は痙攣期、第三期は恢復期であります。

加答兒期は、鼻が出たり、咽喉、氣管支、肺等を侵される時でありまして、風邪と少しも違ひないのであります。咳が強く屢々出て來ます。

痙攣期といふのが一番苦痛な時で、咳が續いて、濃厚な唾液をはき、一時咳がやむと息をしますが、その折に吸氣性笛聲といつて、笛のやうに咽喉がなります。顔面が充血して赤くなり、呼吸が一時停止したりします。赤んぼ等がこんな状態にある時は、見る

に忍びないのであります。

恢復期に向へば、咳は段々と少くなり、笛聲や呼吸停止も少くなつて、一週間乃至十日間位で全快します。

百日咳は冬にかゝりますと空氣が乾燥してゐますから重くなりますが、夏時分の方は傳染力が多いのであります。之は夏は子供が外に出て遊びますから、子供同志が接觸する機會が多いからであります。

子供の體質によつて、軽いものと重いものとありまして、どんな傳染病でも難病でも、軽く通り過してしまふ質の子供がありますが、かう云ふお子様を持たれ、ばお母さんは、ほんとうに幸福です。

百日咳で恐ろしいのは、合併性の病氣が起るからであります。食欲がすっかりなくなつて、衰弱してゐるところに、餘病が發したならば、迎も助かりつこはないのであります。氣管支炎にでもなりましたら氣の毒なほど療りにくうござります。百日咳も強くなる時、出血して來ます。例へば、鼻血、眼の中へ出血したり、腦に充血して、腦膜炎となつたりします。肺ばかりでなく、結核になる小兒も多くあります。

小學校で卒業年齢の兒童を調査して見ましたとこ

ろ、六〇%から七〇%は結核性の児童でありまして、その結核も主に肺の入口、即ち氣管支が二つに分れてゐるところに、淋巴腺の結核になつてゐるのであります。又粟粒結核といふのがありまして、血液の中に粟粒のやうに結核菌がまかれてしまつて、肺結核となり、腦膜炎となるのであります。

このやうに恐ろしい百日咳はどうして豫防してよいかと云ますと、先づ子供が一人百日咳になりましたら、家族から分離してしまふのであります。入院をさせるとか、冬ならば暖い地方へ轉地させるとか空氣のよいところへ移すのが一番よろしいのであります。もし、分離が出来なかつたら、家族の者には豫防注射をさせるのが一番よろしくあります。食慾は衰へるし、咳するために嘔吐することが多いのでありますから、消化し易くて、早く腸へ行くやうなもの、即ち流動物がよろしいのであります。吸入をすることも大事であります。又ブルデ、ジャングル菌から製造したワクチン注射を規則正しく行つてゆけば全快に向ひます。ワクチン注射は、初めての時は熱が出ますが、其後になると熱が出なくなり、段々

量をましてゆくことが出来ます。ワクチン注射をしても、中々效能が表れないと云ふ人がありますが、同じ百日咳の菌でも非常に種類が多く、甲の子供の百日咳と乙の子供の百日咳とは違ひ、東京と九州とは流行の百日咳が違ふといふ風ですから、ちやうど同じにワクチン注射の中の菌の百日咳だよろしいのであります。違ふと、きつめがないやうに思はれます。然し長くたつ中には、效能があるのでありますから、心配せずに注射を受けた方がよろしくあります。(文責在記者)

童謡の要訣

Ⅰ、ウゴクとユラグ問題

大正三年の、たしか夏のある日、幼稚園協會の幾日間かの集會が催されてゐる頃のある日、東京女高師内の幼稚園一室での話です。そこで、私は作歌者として殊に深い感動を受けたのでした。それは、私共同志の三人が、強い信念の下に多年から著手しました「コドモのウタ」近頃大流行の言葉でいへば正しく童謡の創作の上に、非常に尊いショックを與へられたからでした。それは、東京市内の麻布か赤坂方面の或る幼稚園の御年輩の先生からでした。御名も物忘れしてゐて今更失禮に存じますが、それ以後、私は、コドモのウタを作ります時、又、童話を話します時、友人ども後進者ども互に相戒めて、その先生の御好意を、決して忘れないでゐるといふ事を、此の機會に申上げて、心からの感謝をいたしたいと存じます。

その事實はかうです。私共三人の「大正幼年唱歌」

十二冊百二十曲の第一卷に収めました曲の中、その頃出来てゐました數曲を、私が作歌者として先づ説明しまして、作曲者の小松耕輔君はピアノで伴奏し、同じ作曲者の梁田貞君は、聲樂家でもありますから、自ら獨唱して、幼稚園の實際に司はつてをられる方の御批評を乞うたのです。その時の歌曲の中に、次の一つがありました。

蝶と春風

一、ヒラヒラ舞ふよ、蝶々が舞ふよ

蝶々が舞へば、菜の花ゆらぐ

ゆらぐな 花よ。

とまれよ 蝶々。

静かにとまれ、お花に止まれ。

この歌には、二番もありますが、茲では略します。この一番で、傍線をつきました二つの言葉について、私共は、意外に、突つ込んだ御批評を頂いて、いはゞ、降参してしまつたのです。その一つは、

葛クモ

原ハラ

菫シグル

舞ふよ

の訓み方です。これを、私は作歌者としても平氣で、

モーヨ

とよんでゐました。所が、「モーヨ」では、幼児には分らぬとの仰せでした。さういはれて、私共も、はつと氣がつかしました。所謂、掌を打つて三歎しました。

マウヨ

でなくてはならないのでした。ウを明瞭にウと發音して、マウヨ(moyo mauyo)ちよむのでした。

これだぐ、コドモのウタの要領は之だと、三人、顔を見合せて苦笑もし、大喜びもして感謝もしてをりますと、

「も一つ、御相談ですがね」

といふ御聲に、緊張して謹聽しますと

ゆらぐ

といふ言葉に困るとの仰せ。それでは何としませうかと御きゝしますと、子供に分る子供の言葉は、

うごく

だとの仰せ。

一體、言葉に對して、かなり敏感であります私共は、ユラグとウゴクと兩者には、位置、即ち場所の觀

念が違つてゐる事を申しのべまして、風に吹かれて菜の花は、動くのでなくて、搖れてゐるのだ、揺らいでゐるのだ、だから茲では、「ゆらぐ」でなくては、と申しますと、

「しかし、少くとも幼児の世界には、ゆらぐといふ言葉は無いのですものね」

との仰せ。

それを承はつて、私共は、亂れ勝な日本語を、正しい解釋の下につかひたく、又、正しい意味に於て凡ての言葉は使ひたい、使ふ習慣をつけてやりたい、幼児の頃から……と平素考へてゐます私共は、茲では、

「ゆらぐ」といふより他に、適當な正しい言葉は無い

といふ所信を固持しようとしたのですが、倉橋氏や、大阪から御上京中の大村氏などの御説により、幼稚園時代のコドモのウタは、理解を第一とするのだからとの信條の下に、その二つの言葉のアクセントも違ひますので、曲の上にも苦心しまして、遂に、持論は撤回して、

菜の花うごく

うごくな花よ

と、今、「大正幼年唱歌」の第一卷第八頁に御覽下さる

どほりに致しました。そして、その後七八年間、日夜、コドモのウタの創作に苦心をつづけてゐます私は、「ウゴクとユラグ」問題をたへず頭に浮べては、コドモの理解を第一條件としてをります。

2、お煎餅とお盆問題

ある夕暮、まだ電燈もつかぬ頃、私は、家の西隅にある湯殿から出たばかりの時でした。東の縁側から、けたゝましい長女(その頃、四歳)の聲が、私を驚かしました。

「お父様、大變、大變、あれ、大變々々」

私は、驚いて、狭い家の中を唯の一飛で横断しまして、東の縁側へ来てみますと、長女文子は、

「あれ、おせんべいが上つた、おせんべいが上つた」といつて、小さなお目々を大きく見張つて、眞顔になつて、訴へるのです。

「え、どこ〜、どこに、お煎餅が……」

と怪しみますと、文子は、隣屋敷の木立を見透かしてゐるのです、指さして。

私は、隣家の坊ちゃん達が、竿の先に、お煎餅でもつるして、蝙蝠でも釣つてゐるのかしら、それにしても、むぎかた麥飯粒でお池の鯉は釣るけれど、お煎餅で、蝙蝠

を釣るとは初めてだ、と考へる瞬間、文子は

「まあ、大きなお煎餅……」

と、兩手をひろげて、それこそ三歎するのです。今は二階家が建ちまして、隣り屋敷の兩側の地平線は見えませんが、その頃は、木立を通して、かなり地平線近くが見えるのでした。そこには、今し、まるい〜、大きい月が、上つて來てゐるのです。

文子は、月の出を、出たばかりの赤い色の月を見つけて、それを、お煎餅だといつたのでした。さう思つたらしいのでした。

私は、それは〜驚きました。いえ〜、大變喜びました。これが日本でなかつたら、我が子文子を抱き上げて頬すりして、キッス百篇、幼ない女兒を泣き出させるのであつたかも知れませんでした。

「あれは、月ですよ、お月様ですよ」

と、最も平凡にいつてのけたのでしたが、考へて見ると、幼児は、月といふものは、中空高くかゝつて、夜も、少くとも暗くなつてから、白く光つてゐるものと考へてゐるのでせう。今文子の見た月は、低く、隣屋敷の塀の上に、ノツソリ顔を出した面かも大きい〜色の赤い月なのですから、月とは、すぐ

に思はれなかつたのでせう。

しかし、それを、お煎餅とは、何うして考へましたのでせうか。

私は、十數年來、ヨドモのウタの中の「月」に、

出た、出た、月が。

まるい／＼まんまるい

盆の様の月が。

といふ文句のあることを知つてゐます。しかし、盆の形を圓いご意識するヨドモは、少くとも、小學校も二三年になつてからのでせう。殊に、その月の歌は、次に、弦月の事を、櫛で形容してありますが、先日臺灣から上京された或る夫人は、特志で、小學校に手傳つて、その歌の中の櫛の實物を見せるのに苦心したとお笑ひになりました。なる程、今の櫛は、方形なのさへありましてね。

そこで、私は彼の「月」のうたを、もし、幼稚園の歌にする爲には

まるい／＼まんまるい

お煎餅のやうな月が。

ご直す必要を痛感してゐます。

但し、申すまでもなく、お煎餅にも形が種々ありまして、正方形、長方形、瓢箪形、X形、Y形、多様であります。が、少くとも、月をお煎餅で形容した宅の

文字のいただくお煎餅は、手にも晴にも、必らず圓い形—もし少々不整であつても—鹽煎餅が、甚だ多かつたことを告白しなくてはなりません。シュークリームや、ブチングの圓いことは、ブルジョアにのみ存在と思召せ。

そこで、もつと、決定的に、あの月のうたを、幼児向に直しますならば

まるい／＼まんまるい

鹽煎餅の様な月が。

ご字餘りは我慢する必要があるので、御座いませんでせうか。

以上二つの事實によりまして、私共は、童謡作者として、非常に細やかに考へてゐなくてはならない事を痛切に感じます。

此度、「幼児教育」に、童謡について何か書けとの御申越でしたので、久々で、この雜誌も、昨年の頃からのを拜借しまして、中に、外山、小松、青木、松島諸氏の御説も拜讀する機會を得ました。それに連關しまして、更に、殊に、幼児教育の實際家でゐらせらる皆様に御判断を乞ひたい幾へもの重要問題があります。機會を得ましたら、稿を改める事に致しませう。短いお話ばかり多い「幼児教育」に餘り長くては、幼児と共にお互に早く疲れますから—(一一・八・二三)

子供は親の親である

市社會局囑託 山田忠正

私は常に、「子供は親の親である」といふ事をつくづくと感じて居ります。と云ふと、何だか、逆理のやうに思はれますけれど、之には非常な深い意味があるのであります。

國立榮養研究所長佐伯博士は、「子供から孫、孫から曾孫、といふやうに、子供はだん／＼と親より増さつた體格になつて行かねば、此處には人類の進化といふものがない」といふやうな意見を述べられたことがありました。之は勿論、博士が研究して居られる榮養の事に結びつけた論ではありますが、單に榮養の事ばかりでなく、一般的に考へて見ましても、子供は親よりもよりよくなつてゆかねば、實際人類の進歩、人文の發達は出來ないわけでありませう。

この意味から考へますと、子供は親の親である、といふ考へ方は、非常に面白いと思ひます。私は、現在、市社會課に於て、兒童の保護といふ事を致して居りますので、日常の卑近な例ではありまするが、こ

の考への立場からして、一言お話しして見たいと思ひます。

日本では子供を虐待してゐる、としか思はれませんが、「虐待」などといふ言葉を用ひますと、大變大げさになりまするが、よく細い所まで注意して見ますと、矢張り子供を虐待してゐるとしか見えないのであります。

日本には、「親孝行」といふ特別な道德がありますので、この「親孝行」といふ事を、親も子も極端にまで間違ひて解して居るやうです。親が子供を育てます時には、親は年老いてからは、子供にすがつて食べさせて貰ひ、出來るならば、親は左圍扇で樂隱居の生活をしたと思つてゐるのです。この親の心を冷靜に批判して見ますれば、親は子供を食ひ物にしてゐるとしか見えないのであります。親は子供よりは年が多くて老いてゐて、子供は親よりも年が少くて、親よりも遙かに／＼行末が長いのでありますから、

親が希望通りに樂隱居が出来て喜んで居る頃は、子供として最も人生の中で大切な時でありまして、働き盛りで、社會、國家の爲に、人類文化の爲に貢獻を得べき時代なのであります。それなのに、親を世話することにばかりこの大切な時代を空費してしまつて、子供の意志は全部親に奪はれてしまつて居るのです。かうして親を安心させて、親が死んだ頃には、もう早や子供は既に親となつてゐて、その子供が又親のために尊い自分の生活を大なしにされてゐるのであります。かうして順々に、やむことなく、このやうな状態が続いてまゐりましたならば、人類の文化は永遠に發展する暇なく、進化論のレールの上を進んでゆかれなくなるのであります。

一寸考へて見ましても、このやうな矛盾が至るところにありまして、其が多くは習慣に支配されてゐるために、人々に氣づかれずにあるのです。子供を愛するといふ事を、常識的に見ましたならば、日本は世界一だかも知れませんが、その愛は、盲目的なもので、智慧が少しも含められてないのです。「何かほしい」と子供が言ひますと、直ぐ母親はお菓子を食べさせたりします。その結果子供はお腹を痛めます。

これも、前の例と同じやうに、子供を虐待してゐるものでありませう。

我が國は乳兒死亡率の多い國として擧げられて居りますが、これも親の智識の足りない所から起るのであります。

乳兒生後一ケ年内の死亡率を、東京市とニューヨーク、ロンドン等の西洋大都會を比較して見ますと、東京市は實に倍になつて居るのです。

而も、西洋諸國では、乳兒は牛乳で養育するものが七割、人乳で養育するものが三割でありまして、この兩者間の死亡率を見ますと、人乳で養育した乳兒は、牛乳で養育した乳兒よりも、死亡率が三分の一になつて居ります。それで、外國では、乳兒の死亡率を少くするために、牛乳の質をよく改良しよう、といふのが、外國に於ける兒童保護のそも／＼の起因となつたものであります。

日本に於いては、西洋の状態とは反對でありまして、乳兒の七割は人乳で育てられ、三割は牛乳で育てられてゐます。

それ故に、外國と日本との人乳で育てられてゐる乳兒の死亡率の比較になれば、實に六倍にもほつて

ゐるのであります。

かくも死亡率の高いのは何に原因するかと申しますと、今述べました通りに、親の智識の足りないのからで、親の不衛生から起るのであります。誰も、可愛い子供を殺さうと思つて育てゝゐる人はないのであります。無意識のうちにさう云ふ結果になつてゐるのです。子供が鼻をながしてゐるから鼻をかんでやる、子供がころんで傷をしたから醫者へ連れてゆく、かう云ふ事をするばかりが、子供の眞の育て方ではありませんで、親の心そのものを改めて、親の生活を改良して行くことが、一番の問題であります。

子供の養護は結婚前から始まるのであります。日本は微毒やトラホームでは世界一だと云はれてゐますが、よい子供を得よう、將來よく子供を育てゝ行かうと思ひますならば、微毒のものは結婚せぬやうにし、トラホームの者は全快して後結婚するやうに、すべて結婚前に身體を注意せねばなりません。身體の不健康を知りながら結婚し、虚弱なる兒童を生むことは、最も許し難い罪であります。兒童養護の初は、結婚前の身體の強健と、結婚後絶えず衛生

を守ることにあるのであります。

また此處に面白い例があります。外國の幼兒と日本の幼兒とを比べて見ますと、母乳を離れる前までは、日本の子供は外國の子供より一般に丈夫であります。然し、離乳後、食物を取るやうになり、二三歳頃より幼稚園時代、小學校に入る迄は、日本の子供は全部胃擴張になつてゐると云つてもよろしいのであります。これも、親が盲目の愛をそゝぐ故に、起るのです。三歳位の子を見ますと、お腹がぼんと太鼓のやうになつてゐるではありませんか。外國の子供は決してこんな體格の子は一人もないのです。それですから、幼い頃は、日本の子供は外國の子供より肥つて健康さうに見えます。これが十五六歳頃からは外國の兒童にどん／＼負けて行つて、青年時代にすつかり外國兒童に勝たれてしまふのであります。これは、日本の子供が離乳後悉く胃擴張になり、健康を害してしまふからであります。母親は、子供が何かほほしいと云つてはそれお菓子をと與へ、泣いてもむづかつても直ぐ食べさせますし、中流以下の家庭の子供になると、二錢三錢のお小遣を以て駄菓子屋の前に群り、質の悪い、塵だらけなお菓子を買

つて食べてゐるのを見ても、親の無智から子供が健康を害してゐるのが、よく解ります。

今まで述べました事は、卑近な例ではありませんが、體育上の方面に於て、日本の子供は虐待されてゐる事がわかります。これと同じやうに、精神上の方面にも、虐待の例があらはれて居ります。これを一寸述べて見ようか、と思ひます。

我が國の家庭では、「嫁いちめ」といふ大變悪い習慣があります。嫁をいぢめる事が、即ち、子供を虐待することになるのであります。嫁がお姑様の病氣を看護して居るとしませう。お姑様は、「私のやうな年寄は早く死んだ方がいゝだらう、私はあまされてゐるのだから」、等とよく云ふ言葉ですが、こんな事を云はれて、嫁は眞面目な心持ちで看護してゐるのに、とくやしくなつて、泣いてゐるとしませう。それを子供が見て、お母様が大層心から看護に盡してゐるのに、と思ひますから、人に正しい愛情を注いでも、それがこのやうなつまらぬ結果になるものなら、と子供の心に悪い影響を與へます。子供をよくしようと思ふならば、「嫁いちめ」をやめて貰はなければなりません。

近頃、幼稚園でも小學校でも、子供は殆ど洋装になつて居ります。之は誠に喜ばしい事でありまして、私どもには、十三歳を頭に五人の女の子ばかりがありますから、家庭に於ても全部洋装にして育て、行きたく思つて居ります。ある家庭に於ては、未だ江戸趣味とか云つて、子供は長袖にし、女の子なら昔風の日本髪に結ばせ、母親は長火鉢や長煙管と云ふ風では、實に時代遅れでありまして、來らんとする時代に適應させる事が出来ないものであります。時代が進化するのでありますから、子供を豫備的生活にならして行かねばならぬ、といふ事を、親はよく考へて置かねばなりません。

服装のことはかりでなく、音楽、舞踊等の藝術方面に於きましても、總て西洋思想が入つて來まして、世界的傾向に進みつゝあるのであります。それなのに、音楽と云へば琴や三味線ばかりを習はせ、舞踊と云へば昔風の踊を習はせまして、ピアノとかダンスとか今の時代に流行するものを少しも知らせなかつたら、子供の心はどんなに淋しいものでせう。一體専制な親は、子供の好き嫌ひも考へずに、又子供の天分も見ることが出來ずに、自分の趣味から、子供に

無理やりに強ひることは、最も慎むべきことであります。

日本には、また、「嚴父慈母」といふ言葉がありません。言葉があるからには、さういふ事實が存在してゐるのであります。私は昨年兒童保護の研究の爲に米國にまゐりましたが、實に外國の家庭は我が國の家庭とは大變に違ふところがあります。外國では、大人と子供が一諸になつて實に無邪氣に遊んで居ります。大供、子供といふことが云へれば、大人は子供の前では實に大供となるのであります。日本では、嚴父等と云つて、父親は特に家庭ではいかめしくしてゐて、子供等と打とけて遊ぶこともせず、子供等に父親を恐れさせることをよい事としてゐます。それ故に、子供はいぢけてしまひます。父親も母親も、家庭では大供となつて、子供と共に遊び戯れて居て、家庭は子供の娛樂場となつてゐますれば、子供はすが／＼しくなつて、潑刺として發達し、親子の愛情は更らにこまやかになるのであります。

また、我が國では、男の子を育てます時に、豊臣秀吉のやうにぞか、加藤清正のやうにぞか、すべて英雄を模範として、幼い頃から英雄主義を鼓吹して居

ります。將來は、「英雄より凡人へ」、の時代でありまして、軍國主義は全くすたれてしまつて、文化主義の時代となつて居ります。力を以て征服するの時代でなくて、道理を以て治めて行く時代であります。他を壓倒して名譽地位を得るといふやうな思想、即ち英雄主義の思想を、子供に教へ込むといふのは、時代に逆行して子供を育てる事になりますから、子供は大人になつても、容易にこの思想を改めることが出来なくなります。これも即ち子供を虐待してゐる例でありまして、精神上の事だけ更に可愛いさうなものです。親は思想問題を研究し、時代の空氣を吸つてゆくやうにせねばならぬのであります。

女中を使つて居りますところは、女中のことから子供に悪い影響を及ぼすことが多くあります。女中を呼ぶにも「お菊や」ぞか「お花」と、呼びつけにして、主人は長火鉢のそばで何もせずにあるのであります。人間を平等に見ないといふ悪い思想を子供に教へ込みます。子供は同じ人間に生れながら職業に依つて或人は尊ばれ或人はいやしめられるといふ思想を覺えます。人道問題、勞働問題の盛んに唱へられてゐる時に、女中を人間として見ないといふこ

とは、子供に悪い傾向を残します。私の家庭では、私及び妻のことを、「をぢさん」、「をばさん」といふ名で呼ばせて居りまして、女中は自分の子と同じに取扱つてゐますので、子供も非常に親しみを増し、女中も子供を大事にしてゐます。

よく下流階級であることでありますが、子供が外で喧嘩をしてゐますと、その子の母親も出て来て母親同士の喧嘩となり、更に父親が出て父親同士の喧嘩となるのを見ます。「人を見たら盗人と思へ」の時代は既に過ぎ去りまして、今は、「人を見たら味方と思へ」の時代であります。子供が喧嘩をしてゐましたなら、「仲よくさせよう、お互ひに許してやりなさい、」と云つてやります。子供が柱等に頭をぶつけて泣くと、お母さんは「柱が悪いんだから」と云つて、柱をぶつてやりますと、子供もその真似して柱をぶつてそれで満足させてゐる、といふ事は、小さいことながら大變子供の精神に影響します。この時、お母さんは、「坊やの頭も痛からうが、柱も痛いだらうね、」と云つて、柱を撫でゝやつたら、どんなにか子供の心をやさしくする事でせう今は、人類は互に敵同士と見る時代でなくつて、互に助け合つて、共榮の生活をしてゆく時代であります。

要するに、兒童保護とか愛護とか云ふ問題は、先づ

第一に、親の心を改めて、親の生活を改善する事にあるのであります。東京の都市計畫そのもの、又兒童の教育行政そのものが完全になつてゐるのでなくは無駄であります。外國には至るところにある兒童遊園地も、やつと此頃市社會局で淺草藏前に出来ました、然も之さへ不完全のものです。遊園地は學校の數と同じ位に多數なくてはなりません。子供時代に遊ぶことは、身體の健康を増すばかりでなく、多數の子供と一緒に居る、といふその事が、精神によい影響を及ぼすもので、即ち、共同生活、社會生活の準備となるのであります。西洋諸國では、あらゆる點に於て、兒童の保護が盛んに實行されて居りまして、小供は實に幸福になつて居ります。ベルギーでは、歐洲大戰前は社會生活が整つてゐましたので、兒童保護が非常によく行はれて居りましたが、大戰後は國が亂れてしまつたので、死亡率も數倍多くなつて來ました。ニュージーランドも亦日本のやうに死亡率が多い國でしたが、兒童愛護が唱へられるにつれて、三分の一に死亡率が減少いたしました。これを見ましても、兒童愛護を社會がこぞつて實行すると、否とは、明瞭なる結果を表してゐるのであります。我が國に於きましても、大いに考慮し、實行すべき事は、澤山あります。(文責在記者)

異常兒の身體的特徴に就て

高師教授 寺澤嚴男

幼稚園に就て研究せられねばならぬ事項は、勿論極めて多い事であらうと思ひます。然し殊に其の中でも凡ての研究の基礎ともなるべき事柄は、幼兒の心身の發達が如何に如何に變化しつゝあるかを嚴密に測定し得る事であらうと思はれます。之に依つて始めて、各々の異なる個性と發達程度とに應じて夫々加へらる可き養護の方法が決定せられ、又其加へたる養護の効果も知悉する事が出来るのであります。然らば其等身體の發達を如何にして測定し得可きか、又其等精神の發達を如何にして検査し得可きか、之は極めて重要であつて而も又極めて困難なる問題であります。されば次には唯其精神の發達を檢定するに當つて、特に異常兒に現るゝ身體的徴候にも注意すべき必要ある事に就て一言して、多少皆様の御參考に供したいと考へるのであります。

異常兒とは申す迄も無く通常兒と異なる點を有す

る兒童を指しますので、其異なる點とは身體的にも精神的にも云ひ得る筈であります。然し今茲に異常兒と申しますのは、主として心的方面に就て申しまするので、たとへ身體的には或る一部分に若干の異常がありましても、精神的には全く健全であつて普通の兒童と異らぬ時には、茲には異常兒と云ふ中には入れぬ事と致します。扱精神的の異常兒と申しましても、普通の兒童に比して特に優秀なる兒童も、又低劣なる兒童と共に其中に含まれる筈であります。又普通の兒童よりも低劣であるが申しましても、主として智能の發達の薄弱低劣なる者も無論其中に含まれますが、又智能に於ては普通の發達を遂げて居るか、或は時としては多少普通よりも勝れて居るにも拘らず異常の性格を有するもの、即ち素質的に道徳的に缺陷を有するか、或は其他種々の病的性癖を有する者等をも此中に入れる事が出来ます。然し優秀高能の兒童には茲に述べんとするが如

き種々の身體的徵候を伴ふ事は、極めて稀であつて、主としてそれは所謂低脳兒に多いのであります。されば今茲に異常兒の身體的特徵を申しまして、それは主として精神低格者に屢々伴ふ所の徵候に就て云ふのであるとは御承知を願ひます。

二

低能兒の鑑定は割合にむづかしいもので、素人の考へて居らるゝやうにさう容易なものではありません。勿論大體の見當位は誰れでもつきまします。然し正確に其程度を決定する事は至難であります。低能兒の分類及び其分類せられた各々の名稱は色々あります。大體白痴、痴愚、輕痴の三階段に分けて居ります。然し其等の境目は餘りはつきりして居りませぬ。勿論其境目を立てる標準は、學者によつて色々きめては居りますが、然し實際になると對手が木や石のやうに、しかとしたものではありませぬから、其標準ときめた折角の物尺も中々對手に當て試みにくいので困ります。殊に、白痴の邊りになりますと誰にでも分りますが、低能兒と通常兒との境目邊りになると、どちらに入れてよいか可成り判斷に困却するのであります。醫學の方で

は低能兒は主として精神病學者が受持つて居りまして、矢張り白痴 (Idiot)、痴愚 (Imbecillit)、輕痴 (Debilis) の三階級に分けては居りますが、そして其の分ち方の標準も大體きめては居りますが、實際我々が診察などを致しまする時には、大體の見當で此三つの中の何れかに入れて呼んで居るのであります。

されば低能兒の鑑定は、矢張心理學者の手に依つて、所謂精神検査を行つて見て、其智能指數に依つて決定するが確かで精密であります。然しそれにして今日所まだよい精神検査法が組み立てられて居りませぬ。仕方がないから今日一般に行はれて居る所謂ビナー・シモンの系列式智能検査法を用ふるのであります。然し無論之とても不完全であります。まだ、將來此方法は次第に改良せられていつて、完全に近いものになされて行かねばなりません。然し不完全とは云ふものゝ、今日の所よりよいものがありませぬ以上、先づ之を用ふるのが一番正確精細であると云はなければなりません。幸に久保學士が我國の兒童に適應するやうに御考案になつた、改訂智能検査法もありますから大變都合がよろし

う御座います。

三

然し精神検査を行ふに致しましても、之と共に其身體的特徴にも眼をつける必要があります。勿論低能兒等の身體的特徴は嚴密に特徴とは云へず、唯屢々彼等に現はれる徴候と云ふだけのものであります。従つて是等の徴候が無くて普通の立派な身體を有して居るにも拘らず、其精神的方面は明かな低能兒である事もあり、之に反して是等の徴候を有して居るにも拘らず、其精神的方面は立派な通常兒である事もあります。従つて此身體的徴候を判斷の唯一の據り所とするならば、それは無論誤りに陥り易い。されば此身體的徴候の價値を著しく貶して唯主として精神検査法に據るべき事を高調して居る人もあります。然し既に述べたやうに今日の智能検査法なるものもまだ随分不完全であります。から、身體的徴候をも其鑑定の助けとなす事は甚だ必要であると思ひます。

今日用ゐられて居る精神検査法なるものは、まだ精神の全部に及ぶ事が出来ませず、主として智的作用の検査でありまして所謂智能検査法と呼ぶべきも

のであります。然し低能兒等の異常兒を檢定するに當つて、主としてそれが智能の検査をなすに止まりましても、多少不完全ながらそれはまだ許されませう。しかしそれよりも少し困る事は、智能検査法では、出來得る限り智能の本來の素質を檢定する心構えでは居りますが、それにしても矢張其兒童のそれ迄の後天的經驗の有無或は多少が可成り影響して參ります。されば生れつきの智能の優劣の外に、家庭や學校での教育の多少及び巧拙、當人の勤怠、偶然の經驗の有無、智識修得の門戸である感覺器官の故障其他種々の一時的疾病の有無等が、可成り其結果を左右する事を免れませぬ。是等の要素を絕對に排除して檢定する事は只今の所困難であります。然し我等が低能兒の鑑定に於て目指す所のものは其生れつきの素質、若しくは生後間も無き疾病等に依つて永久的に起つた其大脳の組織學的解剖學的異常に依つて生ずる精神的特質或は發達程度を檢定して、所謂眞の低能兒を決定せんとするのであります。見懸けの低能兒、一時的の低能兒、即ち感覺器官の故障、其他種々の原因に依る經驗の多少等に依つて唯一時低能兒と略々同様の水平線にあるものと

は出來る限り區別せねばなりません。されば智能検査法に加ふるに、其身體的徴候にも注意して、それを鑑定の一助とする事は甚だ必要であります。

何となれば是等の身體的徴候は、先天的の精神的低格者に屢々伴ふ所のものであるからであります。

のみならず幼稚園時代の兒童の如きは、自己の精神内容を如實に發表する事が甚だ拙劣でありまして兒童によりましては殊にそれが著しく困難なものがあります。さればたとへ智能検査法を行ふに致しましたも、殊に幼兒に對しては其身體的徴候に眼をつける必要が重々あります。

其他異常兒なるか通常兒なるか自らの判断が頗る疑はしき時、若しくは精細なる検査法に依らず急遽不用意に異常兒を認めんとする時などに、若し此身體的徴候をも發見する時は、其鑑定の上に大なる手懸かり助けとなるものであります。

前にも申し述べましたように、此身體的徴候は、其有無のみでは確實に異常兒であるか否かを決定する根據とする事は出來ませぬが、若し此身體的徴候の現れが著しい程度のものであるか、或は其徴候が唯一つに限らずして數多の徴候が同時に同一人に存

在する時などには、其鑑定上の確實性が非常に増して參ります。

四

異常兒に現はれる身體的特徴が、何故に多くの場合斯くの如く其精神的狀況と密接なる關係を有するのであるか、それはまだ極く明白になつて居るとは云へませぬ。然し低能兒等が何故に生ずるか云ふに、申す迄もなく第一には其個人の始源となれる生殖細胞が、既に受胎前に其祖先よりの遺傳素質を享けて若しくは其親の疾患(微毒等)又は其親の中毒(酒精等)の影響を受けて、受胎後に於ける發育の障礙又は異常を先天的に決定されて居る爲めの事もあり、第二には母が其胎兒妊娠中に精神的及び身體的の攝生を怠り或は誤つて其胎兒に機械的打撃などを與へたりした事の爲めに、其後に於ける胎兒の發育の障礙又は異常を惹き起す爲めの事もあり、第三には出産の際の故障、第四には出産後比較的幼少の時に受けた疾病(腦膜炎等)の影響等に依つて、其後に於ける發達の障礙又は異常を齎した爲めの事もあり、さうして是等の影響は常に中樞神經系統に對してのみならず、同時に他の身體的諸器官に

對しても種々の障碍又は異常を惹き起さしむる場合が多いと云ふ事は容易に考へ得られる事でもあり、又たとへ是等の影響が單に中樞神経系統以外の他の身體的器官にのみ其發育障碍又は異常を來したにしても、それは多くの場合やがて二次的に中樞神経系統の發達に大なり小なりの影響を次第に及ぼして行く事及び其逆の場合もあり得る事は容易に考へ得られる事であります。されば此二者の間には多くの場合に密接なる關係が事實上存在する事は當然の事と云へませう。

(以下次繼)

白百合と銀河

白百合の花は、純潔、溫和なまの意味をもつて居ります。むかし、あるところに、アルクミナーミといふ美しい人がございました。あまり美しいので、遂にジュピターの神様の寵愛を蒙り、ハーキュリーズといふ、玉のやうな男の兒を生みました。ジュピターの妃のジュノーは、これを快からず思ひ、二匹の毒蛇をハーキュリーズの搖籃に放ち、すやすや眠つてゐる幼いハーキュリーズを咬み殺させようございました。しかし、ハーキュリーズは生れながらに力が強いので、蛇を自分で殺してしまひました。

そこでジュノーは尙更憤り、ハーキュリーズを自分の宮殿にまねいで殺す計畫をいたしました。無邪氣なハーキュリーズは、美しい宮殿に参りまして、ジュノーの膝にもたれ、嬉々として笑ひ戯れ、一向恐しいはかりごみを知るよしもありませんでした。それで、さすがのジュノーも、この可愛いらしいをさなごの様に心がくだかれて、思はず抱き上げ、やさしい接吻をしてやりました。

この時、急にジュノー女神の乳房に痛みを覺えましたので、さうしたごみか、さよく見ますぞ、ハーキュリーズはジュノーのお乳を吸つてよろこんでゐるのです。

こゝで、この恐ろしい女性も、情愛の絆にもだされ、自分の淺ましさを深くはぢ入りました。

この時、ジュノー女神の乳房からはお乳が迸つて、天に懸つてゐる銀河となり、地に落ちては美しい白百合の花となりました。

銀河と白百合とは共に幼い子供の無邪氣さから、この世に出來たものです。

大好評

東京帝國大學
文學部講師
ドクトル・文學士
久保良英
先生編著

兒童研究所紀要

六卷新刊

大判全一冊洋裝紙
紙四百頁插畫十圖
定價金參圓八拾錢
送料拾八錢

12合輯

大判全一冊洋裝
紙數壹千貳百頁
插畫三百五十圖
原色
定價九圓五拾錢
送料五拾四錢

大判全一冊洋裝
紙數壹千貳百頁
插畫三百五十圖
原色
定價九圓五拾錢
送料五拾四錢

五卷

大判全一冊洋裝
紙數四百頁插畫十圖
定價參圓八拾錢
送料拾八錢

本研究所以歐米諸國が將來の國
家を標榜する兒童を心理學の國
理學に研究する爲め巨額の國
費を投じて格まざるに我國に
一の其機關のなきを慨し、久保
先生等同志の士が私財を投じて
立せられたる斯界の最高權威で
ある。本研究所の紀要を公刊す
る事第六回に及ぶ既に學術界教
育界は等しく其眞價を認識し今
や本書を翻かすして兒童の研究
を語るの資格なき迄に激稱せら
れたる現代の教育學根柢である

六卷の内容

1	2	3	4
讀方科に於ける教育測定	驚嘆者の計算能力の検査	國民智能検査法	劣等兒の身體的變質徵候に就て
東京帝國大學 文學部講師 久保良英	福平足の意義 學校體操の各種類に於ける兒童疲勞の研究 東京帝國大學 文學部講師 今田寬	兒童の發生的研究 繪畫的構成力に就て 東京帝國大學 文學部講師 久保良英	會員研究 身體發育と智能との關係 海外游著論文抄録 東京帝國大學 醫學部教授 醫學博士 小久保野直樹

東京帝國大學醫學部講師
ドクトル・文學士
久保良英先生新撰

智能査定用具

智能の査定が手軽
に然も實際的に
出来る唯一の用具

久保先生の改訂せる智能査定法は我國各地の幼稚園小学校低能兒童收容所感化院等に用ゐられてその眞價
は一度これを使用したもの、驚嘆を博し居るところに分る。今日本用具を製作して益々其法を用ふる者の傾和
を計ることになつた、學校に於て兒童の精神検査に缺く事の出来ない唯一の科學的智能査定用具である

ボール紙型盤附 定價金參圓 送料金拾八錢

主 幹 東 京 帝 國 大 學 文 學 部 講 師 文 學 士 久 保 良 英 先 生 青 木 誠 四 郎 先 生

主 任 東 京 帝 國 大 學 文 學 部 講 師 文 學 士 青 木 誠 四 郎 先 生

編 輯 主 任 東 京 帝 國 大 學 文 學 部 講 師 文 學 士 青 木 誠 四 郎 先 生

幼 兒 之 研 究

大 正 十 年 創 刊 號 一 十 一 號
行 日 月 號

送 一 冊 定 價 金 參 拾 五 錢
料 金 壹 錢

每 月 一 日 發 行

本誌の使命

本誌は教育の出発点たる幼児の教養百般を心理學的、生理學的、教育的に研究し、學問的根底の確立に寄與すると共に、兒童日常の指導教養に對し最も新らしい材料を提供しその理論の實際化するに努むる本邦唯一の幼児教養の機關たるを以て、使命とす。

本誌の特色

本誌は家庭と幼稚園と尋常一二年の幼児を而已研究發表す。本誌の理論研究は皆我學界の權威が苦心研究の發表である。重要なものは新らしい材料を毎號提供す。間に合ふ兒童教養に缺く事の出來ぬ重要なものを毎號提供す。海外教養は（外國に於ける兒童教養の理論實際の紹介）斯界獨り本誌あるのみ。

本誌の幼児相談所は兒童保護の一切に涉り讀者の質問に應じそれぞれ専門の學者實際家が懇切に明答す。

家庭幼稚園尋常一二の系統的研究

目 次

◆ ◆ ◆ 論 稿 (原 色 版)

◆ ◆ ◆ 理 由

尋常一二年生の精神検査と學級編制法 東京高師教授文學士 久保良英
 幼児衛生の概念 京都帝大教授醫學博士 岸 笠 崎
 歐米に於ける幼児教育のお土産話 東洋幼稚園長 遠 邊 福 雄

◆ ◆ ◆ 研 究

兒童の人物畫に就ての觀察 編輯主任 青木誠四郎

◆ ◆ ◆ 實 際

米國ギルバート會社の理科玩具を觀て 東京英和女學校教師 藤 五 代
 幼児取扱の経験に就て 東洋英和女學校校長 黒 川 瀨 五
 子供が心から喜ぶ運動會 跡見女學校教師 葛 原 三
 創作童話の紅葉 東京音樂學校教師 楠 美 三
 兒童の歌を賣つた男 東京女高師講師 上 杉 成 敏
 創作童話の影急手當 文部省學校看護婦 今 尾 成 敏
 兒童疾病の應急手當 編輯主任 矢 尾 誠 四
 幼稚園の作業 編輯主任 青 木 誠 四
 海外教養 編輯主任 編 輯 主 任
 雜 兒 相 談 所

編輯主任 青木誠四郎

編輯主任 青木誠四郎

各部專門大家

久保良英
 崎淺太郎
 原 福 道
 岸 邊 福 雄
 青木誠四郎
 藤 五 代
 黒 川 瀨 五
 葛 原 三
 楠 美 三
 上 杉 成 敏
 今 尾 成 敏
 矢 尾 誠 四
 編 輯 主 任
 編 輯 主 任
 編 輯 主 任